

# 刺繍の芸術紹介

一宮・三岸節子美術館

布を色彩豊かに飾る刺繍ししゅうの芸術を紹介する「絵を描く糸 刺繍美術展」が6日から、一宮市三岸節子記念美術館で始まる。同館と朝日新聞社が主催し、11月25日まで。

開館20周年の特別展。江戸時代の小袖や明治・大正期の刺繍画、現代の染織アートなど約90点を展示する。

小袖は友禅染の景色や草



木の模様にも、絹糸で花や鳥が描かれている。期間中に展示替えがあり、後期には吉原遊郭の風景を描いた着物も登場する。

刺繍画では、サンフランシスコ万博（1915年）に出品された「孔雀図」も展示される。三岸節子（1905～99）の母校、女子美術学校（現・女子美術大）の生徒が共同制作したものだ。現代アートでは、刺繍を使ったインスタレーションなどを紹介する。

期間中に専門家の講演会やトークイベントもある。観覧料は一般800円、高校・大学生400円、中学生200円。月曜休館（祝日の8日は開館し、9日に休館）。（荻野好弘）

朝日新聞朝刊(尾張版)  
10月6日(土)掲載されました